

校内研修会（ワークショップ）モデル

方法 ※ワークショップとは、参加者全員による共同作業のこと。

(例：信頼される学校教育を推進するためにP3②ランキング③ブレインストーミング)

※利点 いろいろな立場の意見がうまれること。少人数での活動のため、参加者全員への理解がすすみやすいこと。

目的 お互いの考えを理解しながら、話し合った後自分のやるべきことが明確になり、責任感がもてること

進め方 WSはオープニング、活動（本体）、クロージングからなり、ファシリテーターをたて進める。

オープニングは、目的、進め方、ルールの共有と活動に備えたウォーミングアップ

活動は、2から5つの活動の組み合わせ 例 個人ワーク→グループワーク

クロージングは、気付きをふりかえる

ファシリテーター（進行役）が、気を配ること

- ①時間管理 ②休憩の確保 ③緊張感をほぐし、場をなごませる
- ④目的・目標を明確にする
- ⑤メンバーに目配り、気配りする ⑥ルール遵守を徹底する

話し合うときの基本ルール→批判しないでまずは聞く。

- ①人の意見を傾聴し、意見を受け止める ②対立意見を尊重する

※不祥事に関する話し合いをすると、つい問題点だけに目が行きがちですが、良い言動や取組みについても司会者は積極的に取り上げ、その言動や取組みを続けるような話し合いの雰囲気にしていきます。